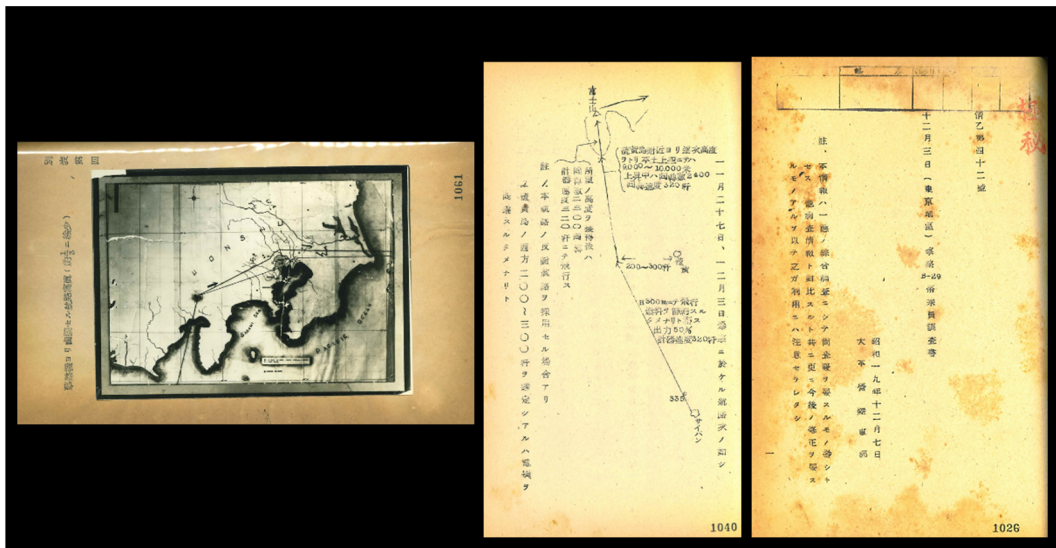




「情乙第四十二号 十二月三日（東京地区）撃墜B-29 搭乗員調査書」

戦略爆撃により日本を敗北に導くことを企図していた陸軍航空軍司令官ヘンリー・ハーレー・アーノルド（Henry Harley Arnold）大將は、1944年7月、マリアナ諸島陥落後、B-29の基地を建設するとともに、第21爆撃部隊を新編してヘイウッド・シェパード・ハンセル（Haywood Shepherd Hansell, Jr.）准将を司令官に起用しました。11月中旬、アーノルドはハンセルに爆撃指令を発令します。最初の目標は東京郊外にある中島飛行機武蔵野製作所でした。

この史料は、12月3日東京空襲時に撃墜されたB-29に搭乗して捕虜となった搭乗員からの聞き取りをまとめた調査書（「情乙第四十二号 十二月三日（東京地区）撃墜B-29 搭乗員調査書」（登録番号：陸空-本土空襲-75））です。この史料には、この時の第21爆撃部隊の編成並びに兵力、太平洋方面からB-29が実施する作戦構想、基地推進に関する企図、敵側の対日判断に関する事項、「サイパン」島飛行場の状況などが記されています。上掲の写真は、史料の表紙、太平洋方面からB-29が実施する作戦構想に含まれる「航路高度並ニ航進隊形」と「撃墜機ヨリ鹵獲セル航路写真」です。これを見ると12月頃の対日爆撃のためのB-29の航路は、硫黄島の電探を西に200～300km回避しつつまっすぐ富士山に向かい、そこから東に進路を変えて主目標である中島飛行機武蔵野製作所（写真においては太線）へ向かっていることが分かります。